

# 生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2018

－人・スポーツ・未来－

## 開催要項

### 1 開催趣旨

平成27年10月1日に設置されたスポーツ庁においては、これまでのスポーツ振興方策の更なる充実はもとより、スポーツを通じた健康増進、地域活性化、国際的地位の向上、スポーツ産業との連携等の新たなスポーツ施策を総合的・一体的に推進していくこととしている。

また、平成29年3月には第2期スポーツ基本計画（文部科学省、平成29年3月24日）が策定された。第2期スポーツ基本計画においては、スポーツ参画人口を拡大し、スポーツ関係団体がこれまで以上に新たな取組を行うとともに、異なる分野の関係組織と効果的かつ密接に連携・協働することにより、スポーツを通じて国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むことができるスポーツ立国の実現が求められている。

そこで、本会議では、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討する。

### 2 主催

スポーツ庁、生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会（公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本レクリエーション協会、公益財団法人日本体育施設協会、公益財団法人スポーツ安全協会、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、広島市）

### 3 後援

体力づくり国民会議

### 4 期日

平成30年2月2日（金）

### 5 日程

受付 9:15- 10:00 (45)	オープニング 表彰式 10:00- 10:35 (35)	全体会 (シンポジウム) 10:40-12:30 (110)	昼食休憩 12:30-14:00 (90)	分科会 14:00-17:00 (180)	情報交換会 17:30-19:00 (90)
展示:9:30-17:30					

### 6 会場

「グランドプリンスホテル広島」

〒734-8543 広島県広島市南区元宇品町23-1

TEL 082-256-1111

## 7 全体テーマ

### 「スポーツが変える。未来を創る。～Enjoy Sports, Enjoy Life～」

スポーツは、人を元気づけるとともに、人を結びつける力、状況や社会を変える可能性を持っている。これまで3年間、東日本大震災の被災地である岩手県、福島県、宮城県において本会議を開催し、スポーツの力について、様々な協議を行い、スポーツの多面にわたる価値について再確認をすることができた。その間、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた準備の進展やスポーツ庁の設置など、スポーツを取り巻く社会環境は大きく変化していると言える。

このような中、第2期スポーツ基本計画（平成29年3月24日策定）（以下「第2期計画」という。）では、中長期的なスポーツ政策の基本方針として、「スポーツで『人生』が変わる」「スポーツで『社会』を変える」「スポーツで『世界』とつながる」「スポーツで『未来』を創る」の四つの柱を掲げている。スポーツの主役は、国民一人一人であり、また、国民に直接スポーツの機会を提供するスポーツ関係団体等である。

そこで、本会議では、スポーツの価値を広く国民に伝え、年齢や性別、障害等を問わず、全ての人々がスポーツを楽しみ、喜びを得ることで、生き生きとした人生を送ることができる社会を目指すため、スポーツ関係団体等に求められる新たな方策について協議を行う。

## 8 内容

### (1) 全体会（シンポジウム）

(ア) テーマ 「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進  
～スポーツ立国の実現に向けて～」

#### (イ) 趣 旨

第2期計画の「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策」では、スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実において、政策目標を「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進とその環境整備を行う。その結果として、成人のスポーツ実施率を週1回以上が65%程度（障害者は40%程度）」となることを目指すとしている。

そこで、多くの人々がスポーツに親しみ、楽しみながら適切に継続することができる環境を整備するため、ライフステージごとの具体的な取組や提案等を交えながら協議を行う。

#### (ウ) コーディネーター

萩 裕美子 氏（東海大学大学院体育学研究科長、東海大学体育学部教授）

#### (エ) パネリスト

鈴木 大地 氏（スポーツ庁長官）

中村 和彦 氏（山梨大学教育学部長、山梨大学大学院教育学研究科長）

後山 礼 氏（株式会社博報堂テーマビジネス開発局アカウントディレクター/ビジネスプロデューサー）

佐藤 安彦 氏（熊本県南関町長）

## (2) 分科会

### ア. 第1分科会 ◆公益財団法人日本体育協会

【スポーツを通じた社会の発展や課題解決を考える

～スポーツ団体等と企業との連携・協働から～】

### イ. 第2分科会 ◆公益財団法人日本レクリエーション協会

【全ての国民が生活の中でスポーツを豊かに楽しむための指導とは

～オリンピック・パラリンピックレガシーとしての指導者の在り方を考える～】

### ウ. 第3分科会 ◆公益社団法人全国スポーツ推進委員連合

【第2期スポーツ基本計画とスポーツ推進委員】

### エ. 第4分科会 ◆(公財)日本障がい者スポーツ協会・(公財)健康・体力づくり事業財団

【障がい者の運動・スポーツ環境を支える

～スポーツ活動の日常化へ向けた支援者の連携を考える～】

## (3) 展示

生涯スポーツ・体力づくり関係団体、企業等のスポーツ関連活動を幅広く紹介するため、展示を実施します。

○展示時間 平成30年2月2日(金) 9:30～17:30

## 9 参加者

地方公共団体関係者、スポーツ・レクリエーション団体関係者、各種産業界関係者、学識経験者、その他関係者(約800名)

## 10 参加申込み(締切日:平成29年12月22日(金))

本会議に参加を希望される方は、以下のURLよりお申込みをお願いします。

なお、インターネットによるお申込みができない場合は、下記までお問合せをお願いします。

<インターネットによる申込み>

<https://req.qubo.jp/lifelongsport2018/form/login/entry>

スポーツ庁又は公益財団法人日本体育協会のホームページからも申込みいただけます。

「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2018」と検索してください。

<問合せ先>

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目18番13号 協建新宿1丁目ビル5階

株式会社マッシュコーポレーション内

「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2018」係 担当:藤田、伊藤

e-mail: lifelongsport18@mash-inc.co.jp、電話:03-6380-4621

(受付時間:9時30分から17時30分、土日祝日・12月29日～1月4日を除く)

## 11 参加費等

(1) 参加費 1人2,000円(資料代込み)

(2) 弁当代 1人1,200円(希望者のみ)

(3) 情報交換会費 1人5,000円(希望者のみ)

#### [振込方法]

参加申込み受付確認後、請求書を申込代表者あてに E-mail にて送付いたします（E-mail がない場合は、郵送いたします）ので、請求書を御確認いただき、指定の口座に期限までにお振り込みください。

## 12 留意事項

参加費等については、お振り込み後の返金はいたしません。なお、参加申込みをされた方御本人の理由で参加できなかった場合は、本全国会議終了後に配布資料を送付いたします。

また、お申込時に登録いただいた個人情報については、本全国会議開催に係る事務以外の目的に使用いたしません。

## 13 その他

詳細及びその他不明な点については、下記にお問合せをお願いします。

スポーツ庁健康スポーツ課健康・体力づくり係

Tel03-6734-2998 Fax03-6734-3792

公益財団法人日本体育協会スポーツ推進部国内課（実行委員会事務局）

Tel03-3481-2215 Fax03-3481-2284

なお、本全国会議は、以下のとおり各主催団体の公認資格に係る更新のための研修等に該当します。御不明な点は、各団体にお問合せをお願いします。

- （公財）日本体育協会公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修の一つとなっています。ただし、水泳、サッカー、テニス、バドミントン、剣道、空手道、バウンドテニス、エアロビック（上級コーチのみ）、チアリーディング（コーチのみ）、スクーバ・ダイビング、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、プロゴルフ（教師・上級教師）、プロテニス、プロスキーの資格者については、別に定められた条件を満たさなければ資格を更新できません。詳細及び手続に関しては、（公財）日本体育協会のホームページを御参照ください。

なお、テニスの指導者は2ポイントの実績になります。

- （公財）健康・体力づくり事業財団が認定する健康運動指導士、健康運動実践指導者の登録更新のための単位を2単位取得することができます。
- （公財）日本体育施設協会が認定する公認指導者の資格更新要件の一つとなっています。詳細及び手続に関しては、（公財）日本体育施設協会のホームページを御参照ください。

## 1 テーマ

スポーツを通じた社会の発展や課題解決を考える  
～スポーツ団体等と企業との連携・協働から～

## 2 趣旨

第2期スポーツ基本計画では、「中長期的なスポーツ政策の基本方針」における柱の一つとして「スポーツで『社会』を変える!」を掲げている。そこでは、「スポーツの価値を共有し人々の意識や行動が変わることで社会の発展に寄与できる」こと、「スポーツは共生社会や健康長寿社会の実現、経済・地域の活性化に貢献できる」ことがうたわれている。

このようなスポーツによる社会の発展や課題解決に向けた取組は、人々に直接スポーツの機会を提供するスポーツ団体等だけでなく、民間事業者（特に企業）においても取り組まれている。よって、この両者が連携・協働して取り組むことは、スポーツによる社会貢献（地域貢献）を今後より一層推進する上で重要であると思われる。

そこで、本分科会では、スポーツ界とビジネス界の共通課題である社会（地域）貢献をテーマとして、スポーツ団体等と企業との連携・協働に取り組む事例を紹介しながら、スポーツを通じた社会の発展や課題解決の在り方について検討することとしたい。

## 3 コーディネーター

仲澤 眞 氏（筑波大学体育系准教授）

## 4 パネリスト

- (1) 福田 哲郎 氏（公益財団法人日本サッカー協会グラスルーツ推進部）  
「競技団体によるスポーツを楽しむ場作りと企業の支援  
～JFAユニクロサッカーキッズの事例から～」
- (2) 村雲 辰善 氏（NPO 法人青空見聞塾理事長）  
「NPOと企業との有機的連携～地域課題の解決例～」
- (3) 大内 康隆 氏（オタフクホールディングス株式会社広報部部長）  
「グラスルーツスポーツ支援の実際  
～地域スポーツを支援する企業の視点を中心に～」

## 1 テーマ

全ての国民が生活の中でスポーツを豊かに楽しむための指導とは  
～オリンピック・パラリンピックレガシーとしての指導者の在り方を考える～

## 2 趣旨

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、国民のスポーツへの関心は確実に高まっている。そのレガシーとして、スポーツ施設などのハードだけでなく、全ての国民が生活の中でそれぞれの体力や興味・関心に応じて、スポーツを豊かに楽しむことができる仕組みや環境が求められている。

特に、スポーツに対する苦手意識などにより、距離を置いている人々にスポーツの楽しさと多様な効果を享受してもらうような働きかけが重要である。

そうした働きかけや運動が苦手な人もスポーツを楽しめるような指導のできる人材をいかに充実させるかが課題となる。そこで、本分科会では、スポーツに関わる指導者を養成している関係団体や地域スポーツの推進を担うスポーツ推進委員などをパネリストに、オリンピック・パラリンピックレガシーとして、全ての国民がスポーツに親しむことを通じて、豊かな生活を実現するための指導者の在り方を考える。

## 3 コーディネーター

松尾 哲矢 氏（立教大学コミュニティ福祉学部教授）

## 4 パネリスト

- (1) ヨーコ・ゼッターランド 氏（公益財団法人日本体育協会指導者育成専門委員会委員長）  
「日本体育協会公認スポーツ指導者制度改定について  
～グッドコーチをめざして学び続けるために～」
- (2) 福田 和子 氏（山口市スポーツ推進委員、スポーツ・レクリエーション指導者）  
「スポーツに距離をおいている人に楽しさと効果をどう伝えるか」
- (3) 河原塚 達樹 氏（公益財団法人日本レクリエーション協会常務理事）  
「スポーツ未実施者の参加促進とスポレク活動継続のポイント」

## 1 テーマ

第2期スポーツ基本計画とスポーツ推進委員

## 2 趣旨

第2期スポーツ基本計画では、その基本方針として「スポーツ参画人口」を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことを提示している。

一方、スポーツ推進委員について、「国は」、「総合型クラブや地域スポーツ団体等との連携・協働を促進することができる優れた人材の選考と研修の充実を支援することにより、地域スポーツの振興をささえる人材の資質向上を図る」とし、スポーツ推進委員の資質の向上に前向きに取り組む姿勢を示している。

地域スポーツの振興を支える人材として第2期計画でも重視されているスポーツ推進委員が推進する地域スポーツは、人と人との交流及び地域間の交流の基盤を形成し、そのことが活力ある社会の実現につながるという重要な役割を持つ。

スポーツ推進委員が地域スポーツの振興策を考える上で、まず、実際に行われている地域スポーツについて把握し、次に、スポーツ推進委員に求められる「連絡調整」機能について、総合型地域スポーツクラブの立上げなどを例に、どのようなことが行われているかを検証する。

その上で、他分野との連携・協力の在り方やスポーツ参画人口の拡大策について、有識者と議論を展開するとともにフロアとの意見交換を行うことで、「一億総スポーツ社会」の実現に向けた方策を探る。

## 3 コーディネーター

柳沢 和雄 氏（筑波大学体育系教授）

## 4 パネリスト

(1) 谷畑 英吾 氏（滋賀県湖南市長）

「湖南市のスポーツの現状と課題について」

(2) 新島 二三彦 氏（一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会会長）

「総合型地域スポーツクラブとスポーツ推進委員の関係について」

(3) 工藤 保子 氏（大東文化大学スポーツ・健康科学部スポーツ科学科准教授）

「地域スポーツ振興へのスポーツ推進委員の関わり方について」

## 1 テーマ

障がい者の運動・スポーツ環境を支える

～スポーツ活動の日常化へ向けた支援者の連携を考える～

## 2 趣旨

我が国は、世界有数の長寿国となり、健康で豊かな生活を求める国民の間では余暇活動の拡充が進んでいる。運動やスポーツに対する関心の高まりもその一つといえるが、一方では、加齢や運動不足を含む生活習慣病を起因とした障がいの発症も増えてきているのが実状である。また、このような障がいを発症した方にとって、リハビリテーション終了後、地域社会へ戻った際に、健康を維持・増進することや生活の質を高めることは重要な課題であり、そのためには、身近な地域で安全に楽しめるスポーツ環境が必要といえる。

現在、リハビリテーション現場や地域社会において、医療関係者や健康運動指導士、障がい者スポーツ指導者の支援により、運動やスポーツ活動の機会の提供や環境の整備が進められているが、支援者同士の分野間における連携・協働を深める取組は十分に図られてはいない。

本分科会では、医療関係者、健康運動指導士、障がい者スポーツ指導者に登壇いただき、まず「障がい者の運動・スポーツ環境に関する現状と課題」について発表してもらおう。次に、「地域の現場でできること」をテーマに、地域における運動・スポーツ関係者との連携や協働について考え、障がい者の運動・スポーツ環境の整備や相互連携による分野間を「つなげていく活動」の方策を検討していくこととする。

## 3 コーディネーター

大槻 洋也 氏（至学館大学健康科学部健康スポーツ科学科教授）

## 4 パネリスト

- (1) 前田 慶明 氏（広島大学大学院医歯薬保健学研究科講師）  
「リハビリテーション現場から日常的なスポーツ活動につなげるためにできること」
- (2) 黒瀬 聖司 氏（武田総合病院疾病予防センター科長代理）  
「内部障がい者がいきいきと運動・スポーツをするための橋渡し  
～リハビリから日常生活復帰まで～」
- (3) 常見 恭子 氏（埼玉県総合リハビリテーションセンター健康増進担当主任）  
「障がい者が身近な地域でスポーツに親しむために  
～スポーツを通じた豊かな生活～」

※第4分科会における「障害者」の表記について

第4分科会においては、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会並びに公益財団法人健康・体力づくり事業財団が担当しており、本分科会については、固有名詞として使用される「障害者」以外には「障がい者」と表記する。